

平成27年度第2回秋田県青少年健全育成審議会全体会 会議録

日時 平成28年3月8日（火）午前10時00分～午前10時45分

場所 秋田県議会棟2階 特別会議室

1 出席者

○ 秋田県青少年健全育成審議会委員（敬称略、五十音順）12名

阿 部 十 全	秋田県ボランティア団体連絡協議会 会長
石 川 信	秋田県書店商業組合 監事
石 塚 弘 子	秋田県警察本部生活安全部少年女性安全課 少年補導係長
伊 藤 一	秋田市立御所野小学校 校長
小野寺 清	元秋田県教育委員会教育長
小 松 洋 輔	秋田少年鑑別所 所長
齋 藤 和 彦	秋田県青少年団体連絡協議会 会長
佐々木 久 長	秋田大学医学部 准教授
鈴 木 朋 子	元秋田県高等学校PTA連合会 副会長
高 橋 秀 晴	秋田県立大学 教授
野 崎 一	秋田県PTA連合会 副会長
三 浦 基	青少年育成秋田県民会議 会長

○ 事務局

秋田県生活環境部男女共同参画課長	石 川 聡
同課班長	信 田 真 弓
同課	齋 藤 一 弘
同課	佐 藤 巧

2 審議概要等

「第2次あきた子ども・若者プラン」の策定について

（会長） 本日の議題は、「第2次あきた子ども・若者プラン」の策定についてであります。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）

昨年6月に開催された第1回秋田県青少年健全育成審議会において、「あきた子ども・若者プラン策定部会」が設置され、会長をはじめ、5名の皆様に就任いただき

ました。

プラン策定にあたっては、これまで部会を9月、10月、2月の計3回開催し、作業を進めてまいりましたが、プラン策定部会委員の皆様からは、大変貴重な御意見を多数いただきましたことを感謝申し上げます。

子ども・若者を取り巻く環境については、大変厳しい面もありますが、委員の皆様方からの意見を参考とさせていただき、作成しましたこのプランを、今後5年間の子ども・若者の育成支援施策の指針とし、各種の施策に取り組んでまいります。

現在の「あきた子ども・若者プラン」の子ども・若者の成長ステージに応じた施策を展開するという基本的な考え方は、第2次プランにおいても継承しているところですが、子ども・若者の自殺対策や児童虐待防止対策、読書活動の推進や英語コミュニケーション能力の育成など、新たな視点での取組を盛り込んだり、記載内容の充実を図るなど、これまでの5年間の社会情勢の変化なども踏まえ、プラン策定部会委員の皆様方の御意見を伺いながら、作成したものです。

それでは、事前にお配りしている「第2次あきた子ども・若者プラン」（案）を諮問いたしますので、審議会より答申いただきますようよろしくご審議願います。

（会長） 皆様お手元に資料があると思いますが、御意見、御感想をいただきたいと思います。今回初めて御覧になった委員の皆様も半数以上おりますので、率直な意見をいただきたいと思います。

→（委員） 質問が2点あります。5ページのグラフですが、出生率と合計特殊出生率とありますが、この合計特殊出生率の意味を教えてください。

もう一つは、36ページの七つの「はぐくみ」の中の3番目で、読んで話して書いて高めるとあります。ここに聞くということがないのは何か意図があるのでしょいか。

（事務局）

合計特殊出生率ですが、1人の女性が一生に生む平均の子どもの数です。

もう一つの「秋田わか杉七つの「はぐくみ」」については教育庁が作成したものですので確認が必要になります。

（会長） このプランの中にはほかの課で策定された資料も引用しています。

質問された箇所にかかれていた内容は、担当が違うということです。

→（委員） 分かりました。

それではもう1点。キャリア教育とか離職率の問題ですが、3年以内の離職率が全国に比べ高いと資料にありました。キャリア教育の充実ということが対策としてあるのですが、49ページの表で、離職率が平成20年から高くなり、平成23年の3月から低くなってきていることとキャリア教育とのかかわりは何か分析されて

いるのでしょうか。

(事務局)

統計資料は労働局からの情報ですが、原因は示されていません。しかしながら、これまでのキャリア教育の成果が出てきているのではないかと推察されます。

(会長) なかなか実態把握が難しいところで、直接的な因果関係は説明しにくいのですが、キャリア教育やインターシップを推進しているという動きとこのデータの変動を解釈すると、今の事務局の説明が妥当と思い策定を進めてきました。いかがでしょうか。

→ (委員) 状況は分かります。ただ、プランを策定するということは、その原因を特定しないことには立てようがないので、離職率が高いのはなぜなのかとか、それとキャリア教育とがどう結びつくのかということ、労働局とか教育庁とかに分けてしまうと問題が分断されてしまいますので、どこかが統合しなければならないと思います。いずれ現状の分析と対策とは表裏一体だということを申し上げておきたいと思います。

→ (委員) 今の委員の御質問結果について、因果関係は分かりませんが、10ページを御覧ください。

「離職しても、短期間で県内の企業に再就職し、頑張っている若者も多く見られますが」という一行をあえて入れてもらいました。

データには出てこないのですが、このことが、委員の質問に対する我々が出した答えだと思います。

→ (委員) 分かりました。

→ (委員) 全体的になんですけど、人口、子ども数がどんどん減少していくということが前提になっていないで、県は人口減少に歯止めをかけようという文章があるのですが、このプランの期間の5年間では難しいと思います。その記載がないと感じました。

秋田県は、特別問題もなく子どもが良い環境で育っていると思います。子どもを育てているのは親ですので、親を褒めて、それを見て子どもが育つという親を鼓舞する文言があっても良いと思います。

(事務局)

本文では、いろいろな連携を取りながら子どもたちを育てていくとしておりますし、その中には家庭という言葉もあり、家庭での親の関わりは大切なものと捉えています。

知事の巻頭の言葉の方でも、その辺には触れることになるかと思います。

(会長) では、各委員の皆様から一言ずつ感想をお願いします。

→ (委員) 大変難しい問題で、ちょっと読んでもあまり理解できませんでした。

これは良くない、これはだめとしないで、何でもトライするべきだと思いました。

→ (委員) 警察の取組のところについて、児童買春や虐待に加え、最近力を入れている立ち直り支援活動についても触れられており、非行を繰り返させないことの重要性が記載されているので良かったと思います。

→ (委員) 今回策定に携わらせていただいたのですけれども、現状を十分に理解した上で作らなければならないということを感じました。

様々な現状を意見交換できたということは、今回、非常にプラスだったと考えています。

→ (委員) 今度は出来上がったものを一般の県民の方々にどう周知していくのかということが非常に大事だと思います。

この冊子により知識を高めていければと感じたところです。

→ (委員) 私もこの作成に関わってきました。小さい県の中でも人口減少が早いことをもっと強く記載しても良かったかとも思いました。

事務局はまとめ役であって、この文章1ページ1ページの取組の責任者は各部署であるということの難しさを改めて感じました。我々が議論しても担当者がいないというもどかしさを感じました。それでも色々直していただきましたので、これを5年間活用していただきたいと思います。

→ (委員) 短い時間の中で、充実したプランを作っていただいたと思います。特に注目したいのは、子どもの年齢層に応じてどのような支援が必要かということを書いてあるところが非常に分かりやすかったかなと思います。

資料3の数値目標について、これを立てることは非常に画期的であるし、見やすいと思いますが、数値目標の根拠はどこにあるのでしょうか。

(事務局)

3ページのところに目標値に対する進捗率を整理させていただいていますけれども、これは現行プラン策定のときに各担当部署と定めたものです。その実績が70ページに記載されており、今回の目標値はこれまでの実績や他の計画との整合性等を踏まえ定めたものです。

→（委員）プランの策定に携わらせていただきました。県では、中間年の30年にも数字を出してもらい、32年の目標値が達成されるような事業に取り組んでいただきたいと思います。

→（委員）プランの策定委員をやりましたが、それまで存在も知りませんでしたし、委員になってからも何度も読み込まないとなかなか理解できませんでした。このように様々なことを細かく記載されていることに驚きました。

また、教育関係の何人かにプランのことを聞きましたが、周知されていません。せっかくこのようなプランがあるのに、作ったことが目標でなくて、これをどう活用するかが目標だと思います。

→（委員）一見してよく分からない、何度も読み込まないと理解できないということはどう考えるか、それが周知の問題と繋がっていると思います。

それぞれの担当課の取組を集め立派なものが出来たのですが、これを総合的に見て判断していく立場の人が誰なのか、どこかでやらないと何か先に進んでいかない気がします。

キャリア教育についてももう少し質問の意図を申し上げますと、今のキャリア教育は私の認識でいうと、ミスマッチを防ぐとか、自己実現を図るとかそういうことで進んできていて、それは間違っていないと思いますけれども、離職率の問題は、やはり働くということが大変だということを教えないといけないと思います。自分に合う仕事をやるとか、インターシップをやるとか自己実現を図るとか、そういうきれいなことばかり教えていると面白い仕事なんてないのであって、やりがいのある仕事というのは、何十年もひとつの仕事を一生懸命やって、砂底の砂金の様にやっと一握りあるかどうかというものを、あまり子どもたちに当たり前のことの様に示していないから、離職率が高いからキャリア教育の充実、キャリア教育の充実が職業教育、そういう単線的な考え方が身を誤るのではないかと心配して質問したのです。

→（委員）広くカバーするが故に大変であると思います。PTA関係者として保護者という立場から見ますと、保護者の意見が反映されているかというとなかなか難しいところだと思います。

先ほどのキャリア教育に関する事で、お母さんたちに話を聞くと、地元に残らせるというより外に出したいという声の方が多いですし、今のキャリア教育が進んでいるのかというと、そこら辺も難しいと考えてしまうところがあります。

また、親の教育ということもPTAの中では話が出ます。子どもに教える前に

まず親であろうと。親が分からなければ、子どもは親を見て育つということも聞こえてきますので、親に対する教育も盛り込む必要も感じました。しかし、このプランはこれで良いと思いますので、親の教育に関することに我々も協力していかなければならないと思いました。

→（委員）このプランについて、現行のものから見てきました。というのは、私は青少年健全育成秋田県民会議の会長を5年務めております。そのため、常々何が問題なのかデータを見ていました。

少子高齢化は数字から明らかで、この後は地域コミュニティの崩壊が待っていると思います。ということは、県民会議として、各市町村民会議を活性化すること、それが地域コミュニティの活性化に繋がっていくだろうと考えています。

私は以前高校の現場で活動していたが、高校生に動いてもらおうと、小学校、中学校、幼稚園での活動が始まり、地域で活動が始まりました。子どもたちが動くと、学校保護者が動きます。その後国際教養大学に動いてもらい、その他の大学も活動していきました。まだまだ十分ではありませんが、地域コミュニティの活性化、これを県の委託事業で行いその成果を発表させてもらっています。まずは、身近なところからという気持ちで、こういうものを読んで理解するよりは、行動する中で感じ取っていく活動を県を挙げて進めるためのプランだと感じています。

→（委員）70ページの目標値に向かい、関わっている大人たちがしっかりすれば、子どもたちがそこに向かっていくと思います。子どもたちの行動には大人たちの責任が大きいと感じます。

子どもたちが秋田という良い環境の中で育ち、巣立っていっていければ良いと思います。

（会長）このプランは39歳以下の若者を対象に作ったものであるが、現行のものを策定してから1年ごとに1万人ずつ若者が減少しています。そこが重大なことです。これは誰のものか。県庁職員だけでなく、県民が理解しなければだめです。県民1人1人に届くためにはどうすれば良いかを考えるのが私たち委員の努めです。

中間年の検証を行い、課題を積み重ね、次のプランを策定するというのが理想です。

私たちが若者に恥ずかしくないように向かい合っていくことをここで確認します。

30ページには、私の研究分野である自殺対策のことが記載されています。皆さ

んがそれぞれの場で動きを起こすときに、このプランのここを書いてあるんだということを意識していただければ良いと思います。

それでは、第2次あきた子ども・若者プラン原案についてはこの内容で知事に答申したいと思いますが、委員の皆様いかがですか。

→（全委員）異議無し。

（会長） それでは、知事に、内容に異議無しということで答申いたします。